

令和7年度 駒沢中学校学校関係者評価委員会 報告書

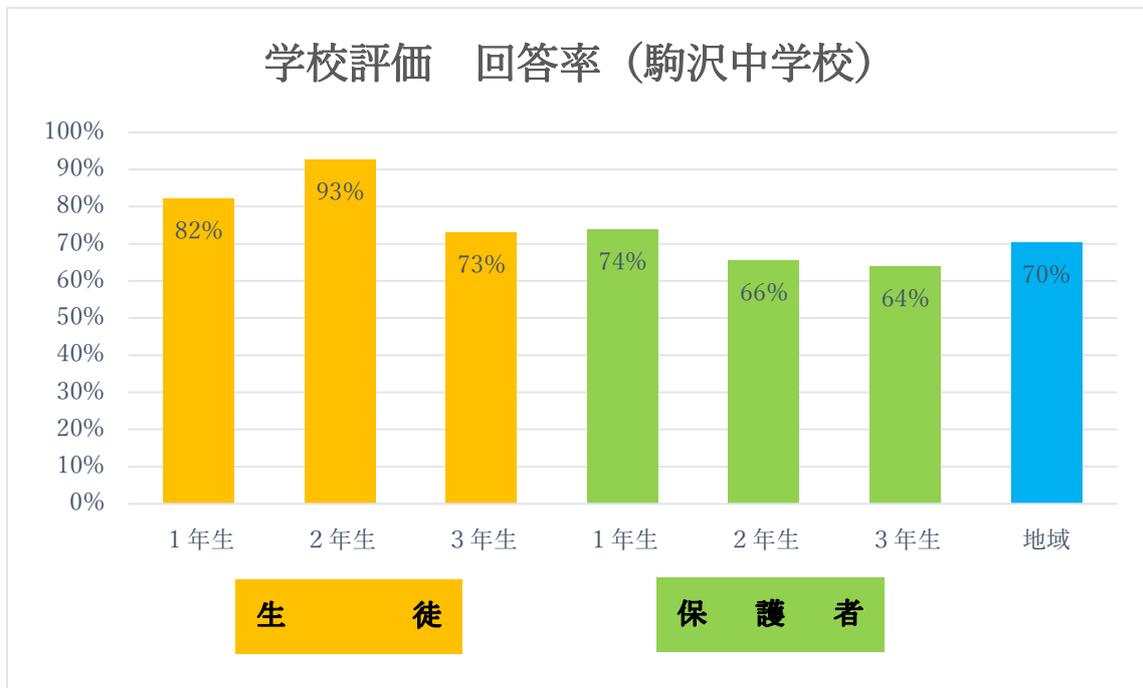
今年度も生徒・保護者・地域住民に向けての学校関係者評価アンケートが実施されました。

駒沢中学校は、校訓として「向学 誠実 調和」を掲げ、教育目標「自ら学び考え行動する、人間性豊かな生徒の育成」の実現のために「安全・安心・安定した学校」の構築を目指して学校運営に邁進していることに敬意を表した上で、令和7年度駒沢中学校学校関係者評価の結果及び提言を次の通り報告いたします。

【令和7年度学校関係者評価】

◎ アンケート実施期間：令和7年11月7日～11月25日

◎ 回答



1 学習指導について

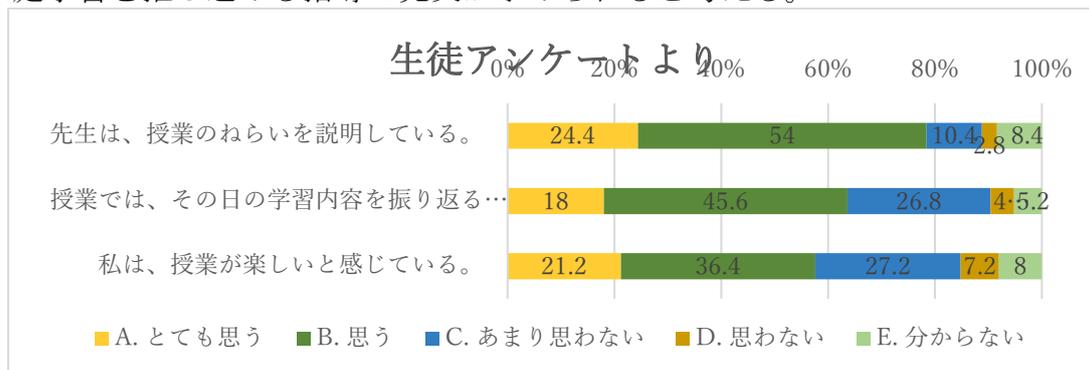
(1) 生徒による評価について

「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている」という項目への肯定的評価（とても思う、思う）88.0%（昨年度 95.6%、以下括弧内は全て昨年度数値）、「授業では考えたことを話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的評価 93.6%（97.4%）、「先生は、映像やタブレットなど ICT を活用した授業をしている」の肯定的評価 93.6%（90.4%）という結果となっていて、多少の増減はあるが、引き続き高い肯定的評価を維持している。



新たに設定された項目「先生は、授業のねらいを説明している」の肯定的評価 78.4%、「授業では、その日の学習内容を振り返る時間がある」の肯定的評価 63.6%となっている。学習の目標を明確にし、結果を振り返りながら次につなげていくことは、生徒の学習活動の動機付けと学習内容の定着のために大切なことと思われるので、一層の指導の充実を進めていただきたい。また、「私は、授業が楽しいと感じている」の肯定的評価 57.6%に関しては、生徒の主観的要素が大きいと思われるので、必ずしも低い数値とは考えられないが、今後の推移を注視したい。

全般についての設問の中で「私は、家庭で宿題や Qubena（eラーニング）などで学習している」という項目の肯定的評価 49.6%（61.2%）となっていて、11.6ポイント減少している。宿題にたよらず、Qubena などを活用した自主的な家庭学習を推し進める指導の充実が求められると考える。



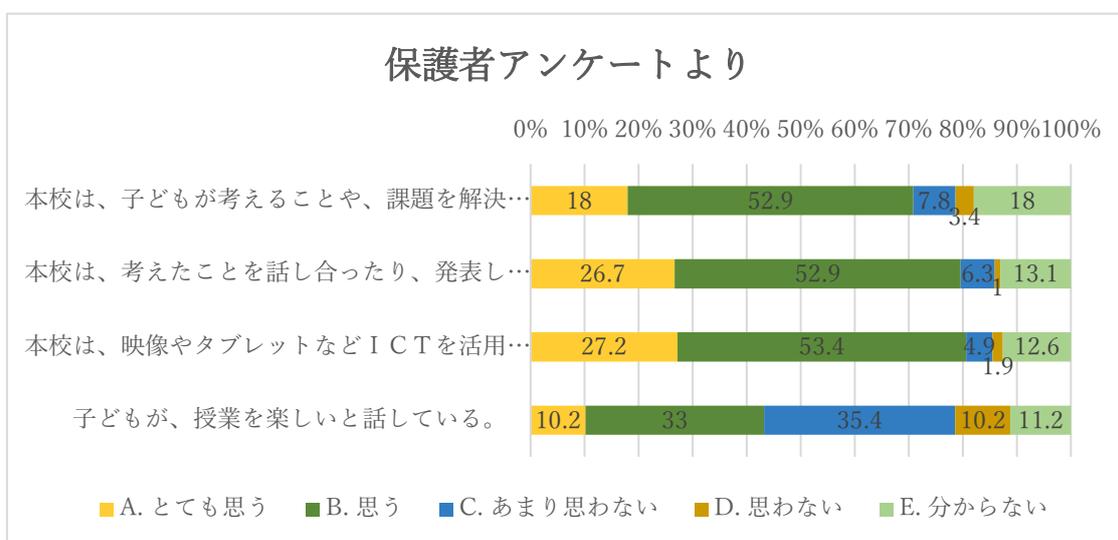
(2) 保護者による評価について

「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切に授業をしている」という項目の肯定的評価 70.9 (67.1%)、「本校は、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価 79.6%

(75.2%)、「本校は、映像やタブレットなど ICT を活用した授業をしている」の肯定的評価 80.6% (63.4%) となっていて、全体的に肯定的評価の数値が高くなっている。特に授業への ICT の活用に関しては、大きく肯定的評価の飛躍がみられることから、今後も大いに期待したい。

新しい項目「子どもが授業は楽しいと話している」の肯定的評価 43.2%については、前述の生徒自身の肯定的評価 57.6%とともに、校内にて改めて分析、再評価を期待するところである。

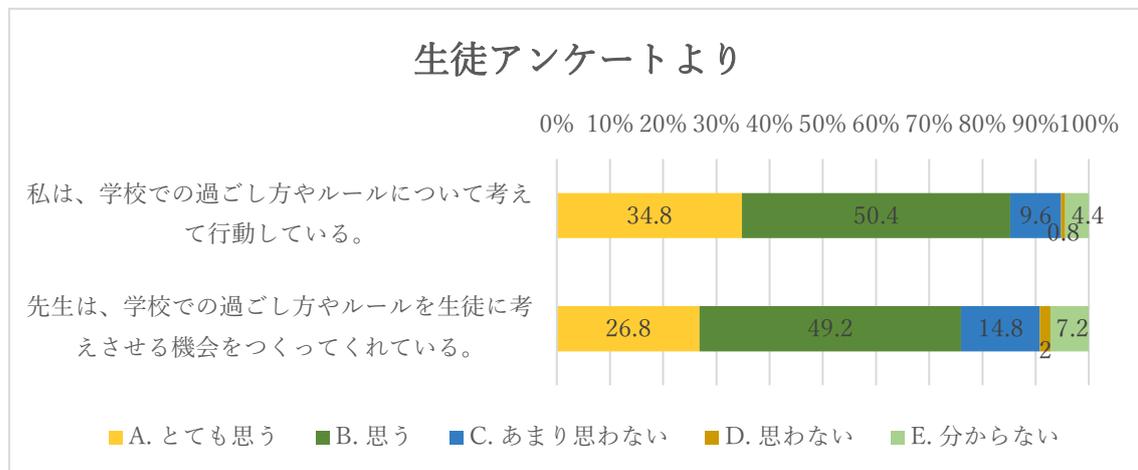
家庭学習については、「子どもは、家庭で宿題や Qubena (eラーニング) などで学習している」の肯定的評価 59.7% (46.6%) で、昨年度より 13.1 ポイント上昇しているが、学校の指導とともに、家庭においても子どもの家庭学習の見守りと支援が引き続いて大切であると考えている。



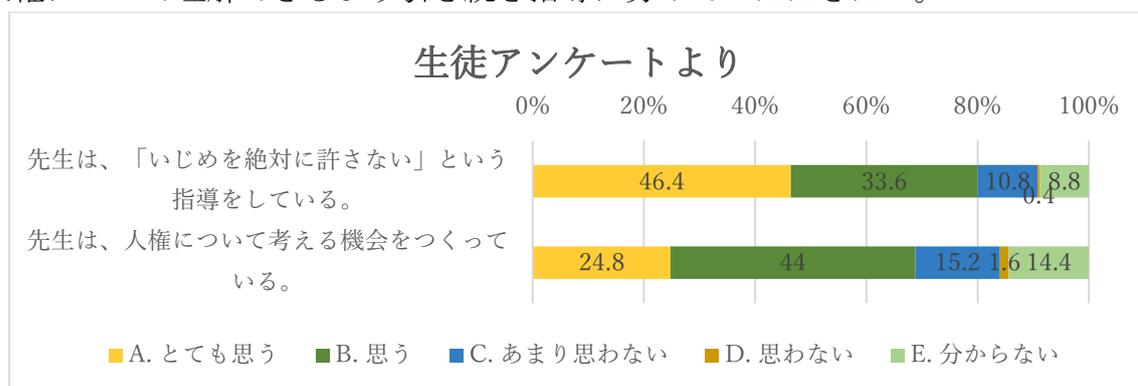
2 生活指導について

生徒アンケート「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」の肯定的評価 85.2% (88.9%)、「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせる機会をつくってくれている」の肯定的評価 76.0% (84.1%) は、8.1 ポイント下がった。学年別肯定的評価は、1年生 77.3% (92.0%) 2年生 75.3% (71.8%) 3年生 75.3% (85.9%) であった。特に1年生の肯定的評価が 14.7 ポイント下がった。このことから中学校生活スタートの学年なので先生

との信頼関係を築くことは大事だと思われる。全学年の肯定的評価が下がっているのに、いままで以上に先生は、生徒との信頼関係を築くように心がけていた
 だきたい。



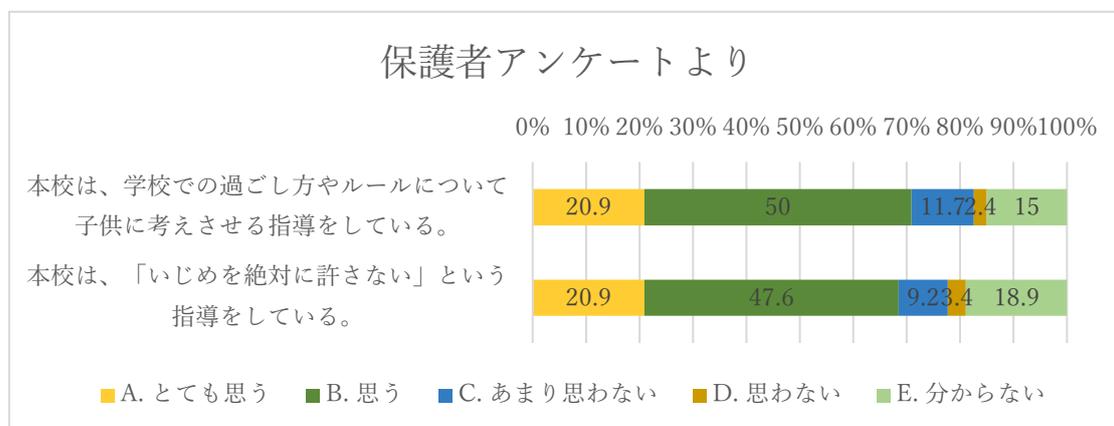
生徒アンケート「先生は、『いじめを絶対に許さない』という指導をしている」の肯定的評価 80.0%、独自項目（9 駒中 principle について）の「友だちや先生の考えや立場を尊重し、認め合うことができている」の肯定的評価 87.2%であった。しかし、「先生は、人権について考える機会をつくっている」の肯定的評価 68.8%、否定的評価 16.8%、わからない 14.4%で他の項目に比べると評価が低い。そのために、先生は、生徒には人権について考えさせるだけでなく、人権について理解できるよう引き続き指導に努めていただきたい。



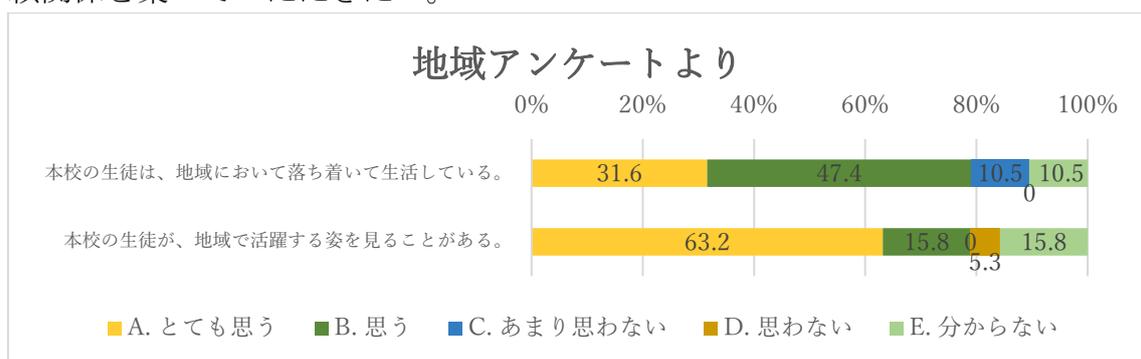
保護者アンケート「本校は、学校での過ごし方やルールについて子供に考えさせる指導をしている」の肯定的評価 70.9%（66.1%）は 4.8 ポイント上がったが、引き続き保護者は学校行事・公開授業等で学校での先生・生徒の様子を知るためにも積極的に来校することを期待したい。

保護者アンケート「本校は、『いじめを絶対に許さない』という指導をしている」の肯定的評価は 68.5%。特に 2 年生「わからない」 23.8%だった。このことから、保護者には「いじめを許さない指導をしている」のがどのような指導か

分かりにくいと考えられる。保護者は、先生との様々な情報を共有することで、学校の様子を理解できると思われる。そのため、学校は、保護者にできる限りの情報発信に努めていただきたい。



地域アンケート独自項目「本校の生徒は、地域において落ち着いて生活している」の肯定的評価 79.0% (90.9%) は、11.9 ポイント減少し、わからない 10.5% だったが、地域で生徒の様子をあまり見かけることがないとも考えられる。しかし、生徒は地域で落ち着いて生活していると思われる。独自項目「本校の生徒が、地域で活躍する姿を見ることがある」の肯定的評価 79.0% (75.8%) は 3.2 ポイント上がった。生徒の地域イベント等の参加協力は、地域イベント活性化のために必要だと思う。これからも生徒の地域イベント等の参加協力を継続していただきたい。学校は、引き続き地域に学校の様子などの情報発信し、よりよい信頼関係を築いていただきたい。

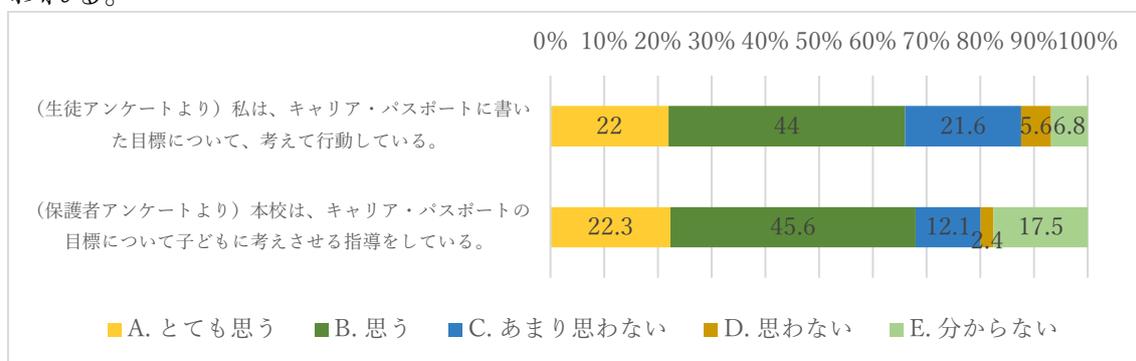


3 キャリア教育について

生徒アンケート「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について考えて行動している」について肯定的評価は、1年生 67.2% (59.4%)、2年生 65.2% (39.7%)、3年生 65.7% (63%) となっている。昨年度の回答よりも否定的な意見が 10 ポイント減り、3学年とも肯定的評価が上がっている。

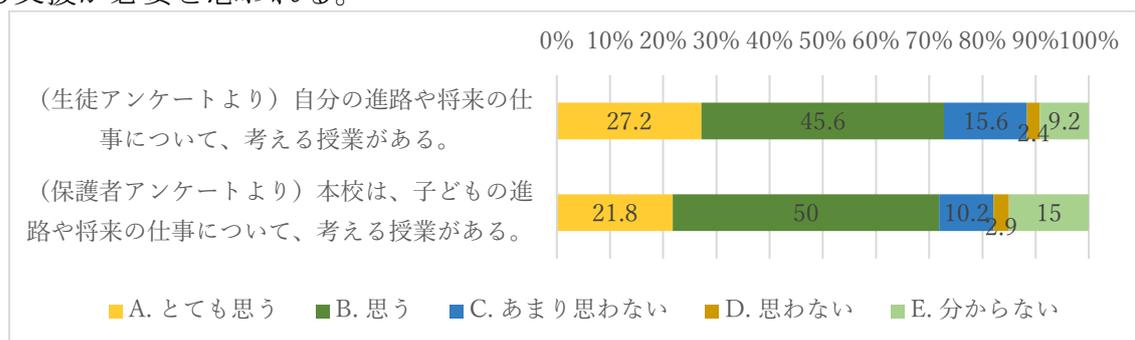
保護者アンケート「本校は、キャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」について肯定的評価は、1年生 54.5% (64.4%)、2

年生 75.2% (68.1%)、3年生 76.6% (76.3%) となっている。1年生は生徒と保護者の評価に大幅な差がある。保護者への情報発信を強化して、生徒の主体的評価や目標設定について、学校と生徒と保護者で共有していくことが必要だと思われる。



生徒アンケート「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」について肯定的評価が1年生 56.8% (60.4%)、2年生 80.9% (61.5%)、3年生 82.2% (84.8%) となっている。1年生は2、3年生に比べると大幅に低く、2年生は昨年度より大幅に高くなった。

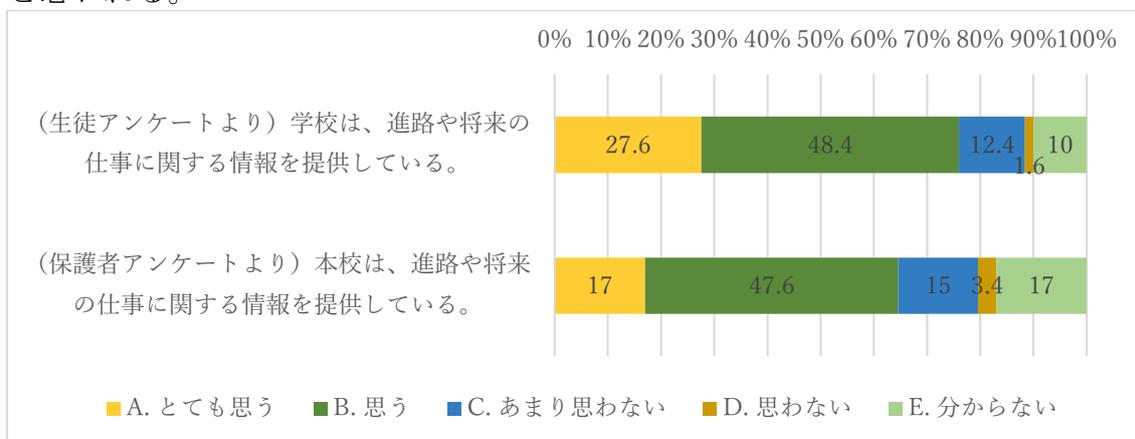
保護者アンケート「本校は、子どもの進路や将来の仕事について、考える授業がある」について、肯定的評価が1年生 53.1% (59.3%) と低く、2年生 76.2% (59.5%)、3年生 90.7% (85.5%) となった。2年生は昨年度より大幅に高くなった。3年生については昨年度同様高い評価となっていた。学年が上がるにつれて肯定的評価が高くなっている。職業の授業や職場体験での経験が、生徒、保護者ともにキャリア教育について意識し考える良い機会になっていると思われる。進路や将来について漠然としている1年生については早い時期から意識を高める支援が必要と思われる。



生徒アンケート「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」について、肯定的評価は1年生 62.5% (65.3%)、2年生 82.1% (53.8%)、3年生 85% (85.9%) となっている。2年生は昨年度と比べて大幅に高く、全体的な肯定的評価も 76.0% (69.0%) となっており、昨年度よりも増加している。

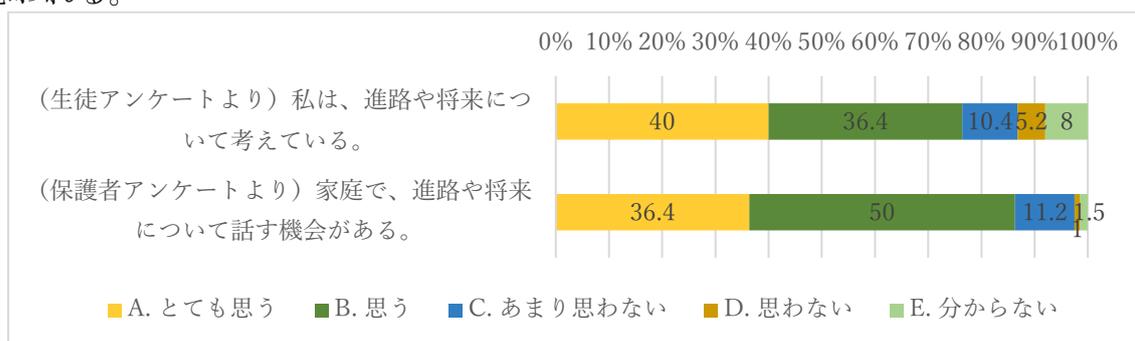
保護者アンケート「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」について、肯定的評価が1年生 53.2% (47.5%)、2年生 69.8% (59.6%)、3年生 73.5% (76.4%) となっている。1年生は2、3年生と比べると低いものの昨年度より高くなっている。2年生は昨年度と比べて大幅に高くなった。全体的な

肯定的評価 64.6% (60.8%) と昨年度より増加している。年々学びの選択肢や価値観が多様化しており、学校は時代に沿った詳細情報の提供が求められていると思われる。



昨年度には実施されなかった生徒アンケート「私は、進路や将来について考えている」では、1年生 68.2%、2年生 77.5%、3年生 84.9% となっており、全体的に「とても思う」と回答した生徒が40%、「思う」を含めると76.44%の生徒が肯定的評価となり、進路や将来を考える生徒が大多数を占める結果となっていた。

保護者アンケート「家庭で、進路や将来について話す機会がある」では、1年生 77.2%、2年生 92.1%、3年生 92.2%と高評価となり、全体でも平均が86.4%と肯定的評価が多数あった。学年が上がる程に評価が高くなり、生徒、保護者ともにキャリア教育について意識し、進路や将来に関心があり、家庭で話し合う機会が多いことが分かる結果となった。引き続き学校側との連携が重要であると思われる。

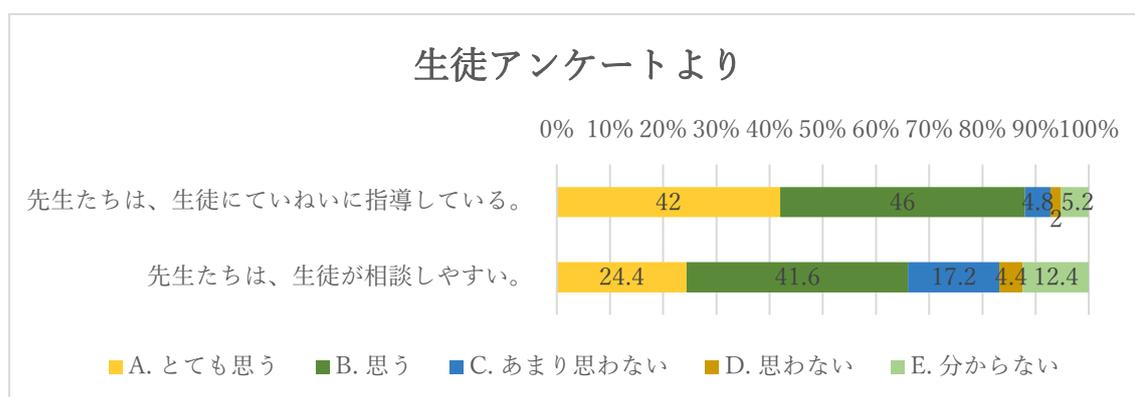


4 教職員について

生徒アンケート「先生たちは、生徒にいていねいに指導している」は、肯定的評価が88.0% (86.3%)、否定的評価6.8% (8.1%)、わからない5.2% (5.5%)と大きく変化は見られないが、学年別に見ると、1年生 89.7% (85.2%)、2年生 82.0% (78.2%)、3年生 93.2% (94.5%)と3年生はほぼ横ばいではあるが、1年生 4.5ポイント、2年生 3.8ポイント増加している。

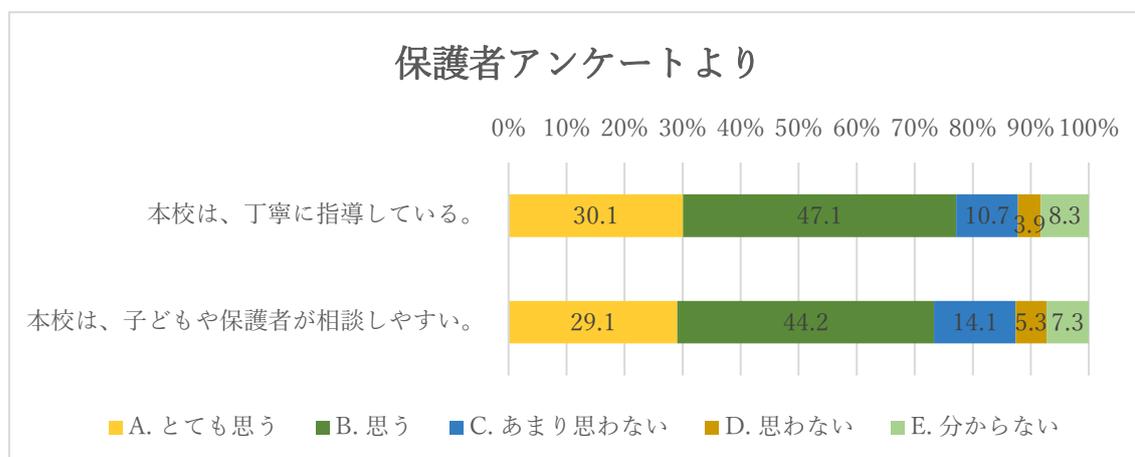
「先生たちは、生徒が相談しやすい」は、肯定的評価 66.0% (68.7%) と 2.7 ポイント、否定的評価 21.6% (22.9%) と 1.3 ポイントとどちらも減少しているが、わからない 12.4% (8.5%) と 3.9 ポイント増加している。学年別に見ると、肯定的評価は 1 年生 72.7% (66.3%) と 6.4 ポイント、2 年生 56.2% (52.6%) と 3.6 ポイント増加しているが、3 年生は 69.8% (84.8%) と 15 ポイント減少している。

先生の指導に対しての評価は高いが、相談のしやすさにはまだ課題があると見てとれる。

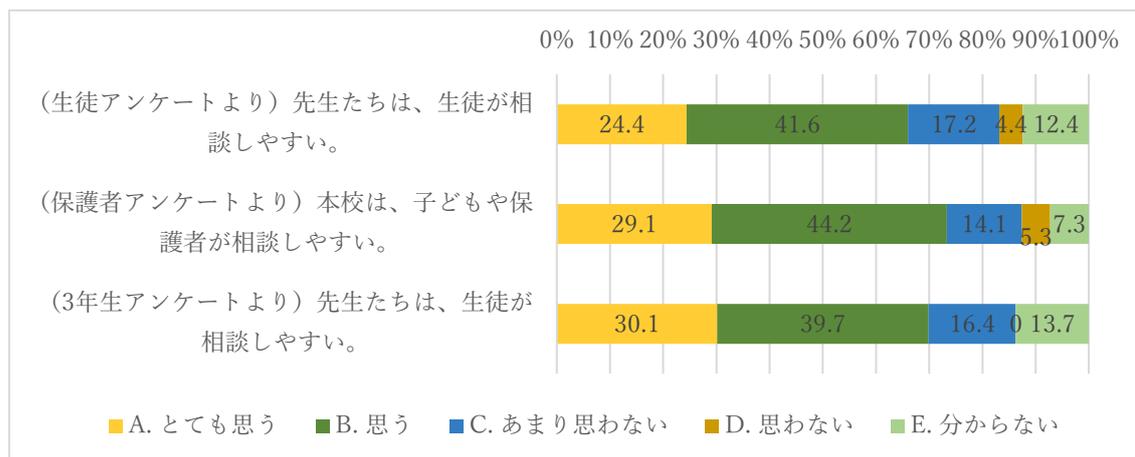


保護者アンケート「本校は、丁寧に指導している」は、肯定的評価 77.2% (78.9%) と 1.7 ポイント減少、否定的評価 14.6% (12.4%) と 2.2 ポイント、わからない 8.3% (8.7%) と 0.4 ポイント減少とほぼ横ばい。

「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」は、肯定的評価 73.3% (67.0%) と 6.3 ポイント増加、否定的評価 19.4% (19.2%) と 0.2 ポイント減少、わからない 7.3% (13.7%) と 6.4 ポイント減少している。わからない意見が減少し、肯定的評価が増加していることから、保護者は先生に相談しやすいことが見てとれる。



生徒アンケート「先生たちは、生徒が相談しやすい」、保護者アンケート「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」の項目については、保護者アンケートでは肯定的評価が増加しているにも関わらず、生徒アンケートの特に3年生の評価が減少していることから、生徒・保護者・先生の相互関係のバランスが大切だと見てとれる。



5 総合評価

まず昨年度に比べてアンケートの回収率が全体的に向上していることを高く評価したい。個々で見れば若干回答率が下がっている学年もあるが、例えば生徒であれば1年生は昨年度の64%から今年度は82%に向上し、同様に2年生は昨年度74%が93%、さらに保護者に関しては1年生55%が74%、2年生44%が66%、3年生48%が64%と全学年で回答率が上がっている。また地域住民に関しては昨年度の54%が70%へと向上し、昨年度の学校関係者評価報告「さらなる改善の努力課題」で挙げた「生徒・保護者ともに調査回答率の改善に向けた取り組み」が積極的になされた結果として評価するとともに、本アンケート調査の信頼性が高まり、より多くの意見を反映した分析が可能になった。

今年度の生徒アンケート項目は「学習について」1項目、「学習指導」7項目、「生活指導」4項目、「学校行事」3項目、「キャリア教育」4項目、「先生（教職員）」2項目、「全般について」4項目、「部活動」3項目、「駒中 principle」7項目、計35項目の質問構成で実施された。

この中でも目を引くのが学習指導項目における評価が高いことである。「授業が楽しいと感じている」といった主観を問う項目で肯定的評価がやや低めになってはいるものの、大半の項目において肯定的な意見が8割から9割を占めるという結果であった。

さらにこの傾向はキャリア教育や学校行事についても同様で、生徒たちが教

科の学びだけでなく、自分自身の将来について考えたり、行事を通して成長したりする機会が効果的に提供されているのではないかとと思われる。

また、先生（教職員）についての質問で「先生たちは、生徒にいていねいに指導している」の肯定的評価は昨年と同様、生徒全体で 88.0%と高く、3年生に限れば 93.2%が肯定的評価である。こうした教職員の指導の取組を肯定的に評価する傾向は特に「駒中 principle」に関する質問の結果にも見られ、教職員が普段から生徒一人ひとりへ誠実に向き合っていることの成果であろうと評価する。また「先生は、生徒の意欲を大切にしている」の肯定的評価は生徒全体で 88.4%となっており、昨年度課題として挙げた、学習に対して「生徒自身が自主的・積極的に取り組める」ことにつながっていくのではないかと考える。

次に保護者アンケートについては、「学習指導」5項目、「生活指導」4項目、「学校行事」3項目、「キャリア教育」4項目、「先生（教職員）」2項目、「部活動」3項目、「学校からの情報提供」4項目、「学校運営」3項目、「学校と家庭の連携」3項目、「学校の安全性」3項目、「全般について」12項目、計46項目の質問構成で実施された。

保護者アンケートにおいても学習指導に関する項目の肯定的意見の割合は高く、生徒・保護者ともに良い評価をしていることが分かる。さらに質問に対し「分からない」という回答が減った。「学習指導」の中の「本校は子どもが考えることや、課題を解決することを大切に授業をしている」という質問に対し、昨年度は保護者全体の回答で「分からない」が 23.6%であったが、今年度の回答では 18.0%と減り、特に3年生保護者においては 10.9%であった。同時にこの質問に対する肯定的評価は昨年度の保護者全体が 67.1%であったのに対して、今年度は 70.9%、3年生保護者においては 78.1%と高くなっている。また「本校は、子どもの進路や将来のことについて考える授業がある」への保護者全体による肯定的評価は昨年度 68.3%が今年度は 71.8%、さらに今年度の3年生保護者においては 90.7%が肯定的評価をしている。

これらの結果から、駒沢中学校における学習指導の状況について保護者の理解が深まり、かつ内容に対して非常に高い水準で肯定的な評価を受けていることが分かる。このことについても昨年度課題として挙げた「保護者が普段の授業の様子を知る機会がさらに持てるよう」に対する取り組みの成果ではないかと評価する。

さらに今年度はアンケートに対する地域からの回答率が 70%と大変高い水準であった。その中でも「本校の生徒が、地域で活躍する姿を見ることがある」の肯定的評価が 79.0%という結果は、保護者や教職員はもちろん生徒自身も誇れる結果であろう。

6. 更なる改善の努力課題

- (1) 文化・芸術事業等、生徒の豊かな心を育む情操教育の強化
- (2) 普段の授業・家庭学習において、生徒が自ら取り組めるような工夫
- (3) 保護者が学校行事等の運営に参加できるような仕組みの検討